

東京大学大学院人文社会系研究科
次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣
帰国報告

提出日 2012年8月31日

派遣生の基本情報

氏名：長野壮一

所属先：欧米系文化研究専攻西洋史学研究室 修士課程1年次

派遣形態：推奨プログラム

研究課題名

CLA 夏期講習（フランス語集中講座）

派遣先での活動

(1) 派遣先の基本情報

国名：フランス

都市名：ブザンソン

研究機関名：フランシュ＝コンテ大学・応用言語学センター

(2) 派遣期間

出発日：2012年7月28日

授業期間：2012年7月30日～8月24日

帰国日：2012年8月27日

総日数：31日

主な研究成果

(1) 当初の計画の概要

フランシュ＝コンテ大学付属の応用言語学センター（CLA、<http://cla.univ-fcomte.fr/>）においてフランス語夏期講習を受講する。CLAは外国人を対象としたフランス語研修に特化した施設として世界的に名の通った高等教育機関である。本講習では、最初にクラス分けが行われた後、週25時間の集中授業が4週間にわたって開講される予定となっている。このプログラムを通じて短期間でフランス語の運用能力を実用可能なレベルにまで引き上げ、近代フランス社会文化史という自身の研究に資するという計画を立てていた。

(2) 実際に達成された成果

CLA の授業は、通常講義および視聴覚教材を用いたメディア授業という二部構成から成る。

通常講義においては、FLE (Français Langue Etrangère : 外国語としてのフランス語) のプログラムに従って、文法・語法の教授が主に行われた。授業の中では講師や他の生徒と対話を行う機会が多く設けられたため、これにより会話能力を向上させることができた。

メディア授業においては「Le Point du FLE (<http://www.lepointdufle.net/>)」の提供する視聴覚教材を用い、母音の発音を識別したり、名詞や活用語尾を聞き分けたりする練習を行った。一度に大量のフランス語を聞くことによって、耳をフランス語に慣れさせることができた。

また、これらの授業のほかに毎週金曜の午後から校外授業が企画され、ブザンソン周辺の村や牧場などを訪れた。この授業ではワークシートが配布され、現地の人々と会話しながらタスクを行っていくという形式がとられた。その結果、フランシュ＝コンテ地方の文化や実生活の中で話されるフランス語に多く触れることができた。

語学以外の面でも得たものは大きい。週末は語学学校で組まれた文化プログラムに参加するなどし、リヨン、ディジョン、アルケ＝スナン、ロンシャンといったブザンソン周辺の都市を見学することができた。

本講習では、ブラジル、メキシコ、スロバキア、ベラルーシ、リビア、アフガニスタン、チャド、ホンジュラスといった、多種多様な出自をもつ学生たちと出会った。彼らと交流する中で、言葉の違いだけでなく、思わぬ文化の違いに気づかされる機会も多く、グローバルな視野を広げることができた。

以上のように、本講習は派遣生にとって、語学および文化の面において得るもの大きい体験であった。

(3) 今後の研究展望

今回の CLA におけるフランス語集中講座受講の結果、派遣生はフランス語運用能力を派遣前に比べて格段に向上することができた。この成果をもとにして、今後フランスの文書館へ史料調査に赴き、修士論文完成に必要な史料を収集する予定である。さらに、ゆくゆくは学位取得を目的とする留学も視野に入れて、研究・学習を進めていきたいと考えている。ただし、史料調査や留学を円滑に行うためには、現在の語学力ではまだ十分だとは言いがたい。今後も継続した語学力の研磨が不可欠だと考えている。



Centre de linguistique appliqué

応用言語学センター

(派遣生撮影)



Ornans

ギュスターヴ・クールベの故郷。校外授業にて訪問することができた。

(派遣生撮影)